



## 目次 01 歴史文化学科の活動

### 01 歴史文化学科の活動

#### 博物館資料論(A)の学外講義

2021年8月8日、博物館資料論(A)の学外講義が、神戸市立小磯記念美術館と神戸ゆかりの美術館で行われました。午前中に小磯記念美術館の絵画学習室にて講義を受けた後、企画展「絵画のひびき」や収蔵庫を見学しました。収蔵庫では、作品を収蔵する移動式棚を動かしたりと貴重な体験ができました。午後は神戸ゆかりの美術館で企画展「世界周遊：神戸ゆかりの画家たちが見た外国風景」を見学し、作品が保管された経緯、修復作業や展示の方法などを学びました。また、オプションとして神戸ファッション美術館の「原田治展」を見学しました。実際に体験しないと分からないことも多く、学芸員スタッフから現場で話を聞いたことはとても勉強になりました。(2回生・畑匡洋)



#### 博物館実習 I (A)の見学会



2021年12月11日、博物館実習 I (A)の一環として、神戸らんぷミュージアムと神戸海洋博物館・川崎ワールドに行きました。前者では火起こしの歴史から遡り、ランプのみならず行灯などの道具を通じて、明かりの重要性が示されていました。ここは関西電力が運営を担っているようですが、2022年2月末で閉館と聞き残念に思いました。後者は神戸を彩る港や船舶と川崎重工グループの足跡を展示しており、実物やミニチュア模型を用いた解説が多くあります。いずれの展示も見応えがあり、公営博物館とは異なる視点での展示を学ぶことができました。(2回生・柴山和弥)

歴らぼ通信の刊行は、これで14号となりました。歴らぼ通信では、歴史文化学科における様々な活動を紹介しています。通信に記載される記事の多くは、ホームページ「歴らぼのWEBサイト」(<http://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun>)でも紹介していますので、そちらもご覧下さい。各記事を書いた学生の年数は記事の時期に合わせています。

## 博物館実習Ⅱ(A)の紹介

博物館実習Ⅱ(A)は、今まで蓄えた知識や経験をもとに、新たに博物館や展示室を考えるという実践的な内容でした(2021年9月17~19日実施)。まず、先生たちの話やアドバイスを参考にしながら、どのような博物館をつくるのか、3つのグループに分かれて議論しました。2日目以降も、全体や各グループで議論を続けました。なかなか進捗しませんでした。3日間の中で少しずつ検討や作業が進み、ようやく展示室のジオラマや博物館全体の構図が完成しました。この実習は「生徒自身が動き、話し合い、具体的なものをつくる」という内容であったため、大変でしたが、博物館についてより深く学べる機会となりました。(3回生・伊藤明菜)



## 2021年度「実践地域学」の紹介



このちょっと変わった名前の講義は、学科の学びを社会や地域に活かすにはどうすれば良いかを考えることを目的に作りました。複数の講師がそれぞれの専門的分野(景観保全とまちづくり、文化財と博物館、編集と出版)から話題を提供し議論します。例えば、2021年8月7日には学外講師招聘講義の制度を活用し、地方(三浦市、岩見沢市)で出版活動を先進的に実践する人達にZoomで講義参加してもらい、講師を交えながら学生と意見を交換しました。こうした議論が卒業後の活動に少しでも役立てばと願っています。(教員・鳴海邦匡)

## 東谷ゼミ巡検@京都

東谷ゼミは、2021年3月29日、京都に遠足に行きました。訪れた北野天満宮・平野神社・嵐山はどこも桜が満開で、とてもいい季節に行くことができました。特に平野神社の桜は美しく、風が吹くたびに桜吹雪が舞ってとても綺麗でした。また、京都の有名どころだけではなく、住宅街の中に残る聚楽第跡地など知る人ぞ知る場所に訪れてとても面白かったです。先生の案内がないと絶対に行かない場所ばかりだったので、ちょっとした探検気分を味わうことができました。私自身も自粛で京都に長い間行けなかったもので、とても楽しかったです。(2回生・徳留亜美)





## 2020 年度卒論発表会

2021 年 3 月 9 日(火)に卒論発表会を開催しました。今年は感染症対策のため、オンラインと対面の併用で行われましたが、30 名が参加しました。3 名(垂水颯輝・福田綾香・藤原敬弘)が卒業論文の内容を、院生の大城友莉奈さんは大学での勉強法を報告しました。それぞれの報告に対し、活発な議論が行われました。報告後には卒業論文といかに向き合うかを話し合い、教員と学年が入り混じって盛り上がりました。コロナ禍だからこそ、より「チーム戦」としての卒論に取り組む大切さを認識できました。(3 回生・大下隼平、三谷晃弘)



## 2020 年度卒業論文・垂水颯輝 (高田ゼミ) : 神聖ローマ帝国における帝国郵便の成立と発展 —皇帝の役割を中心に—



16 世紀以降のハプスブルク家の台頭は当時の社会システムにも大きな変革をもたらした。それまでの輸送システムは徒歩や騎馬による飛脚制度が主流でした。しかし、1490 年にハプスブルク家のマクシミリアン 1 世がヴェネツィアで飛脚問屋を営んでいたタクシス家と郵便契約を結び、それまでの飛脚制度ではない郵便制度という新しい社会システムが誕生しました。この郵便制度は通信・運輸の基幹になるとともに、「コミュニケーション革命」の原動機として、新聞・雑誌・旅行・金融等の発展を支えました。卒業論文では、その郵便制度の成立と発展の過程、それらに関する皇帝の役割を中心に論じました。

左図 ベルンハルト・シュトリーゲル「皇帝マクシミリアン 1 世の家族」(1515) の部分拡大

## 2021 年度卒論中間発表会開催@東谷・高田合同ゼミ

2021 年 11 月 29 日、近世・近代日本史の東谷ゼミと近代西洋史の高田ゼミで卒論中間発表会を行いました。2、3 回生を含め計 25 名が出席し、各ゼミから 2 名が現時点での卒論研究を発表しました。発表後は質問が飛び交い、発表者、参加者ともに、新たな気づきや知見を得ることができ、自分の研究を客観視し、見つめ直す良い機会となりました。また、日本史と西洋史で研究分野は異なりますが、資料を用いて歴史を再考するという両ゼミの共通点を見つけ出すこともできました。最後の交流会では、4 回生だけでなく、参加者全員一緒になって、これからも研究を頑張ろうと互いに労い合い、励まし合いました。(4 回生・大下隼平)

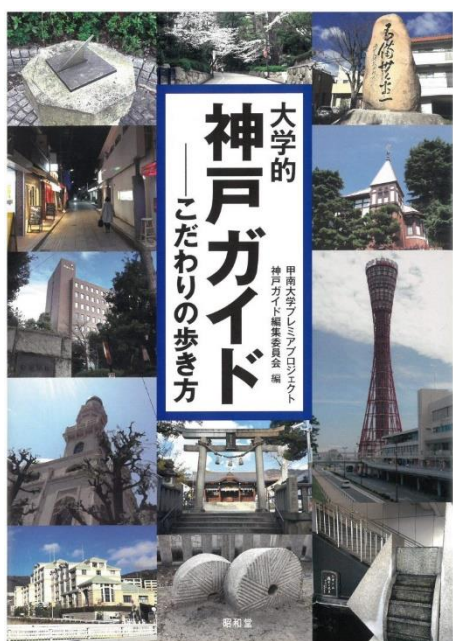




2021年7月より、私は明石市史の古文書調査に参加させて頂きました。これまで大学では古文書に関する授業や課外活動に取り組んできましたが、もっと深く学びたいと思い、市史編纂委員でもある東谷先生に紹介させて頂きました。主な活動は史料の目録作りです。古文書に書かれた和暦や表題などを読んでいくのですが、大学で見慣れた崩し字とはまた違い、こんな崩し方もあるのかと勉強になりました。その他、史料を所蔵されている方の自宅で行なう調査に同行し、古文書の保存状態を間近で見るなど、とても貴重な体験となりました。(4回生・飯田朱音)



### 『大学的神戸ガイド』の紹介



①	②	③
⑫		④
⑪		⑤
⑩	⑦	
⑨	⑧	⑥

- 【カバー表】
- ① 九鬼周造の日時計
  - ② 甲南大学 春のキャンパス
  - ③ 野寄公園の石碑「有備無患」
  - ④ 北野異人館
  - ⑤ ポートタワー
  - ⑥ 住吉駅の水車のモニュメント
  - ⑦ 野寄の大日女尊神社
  - ⑧ 瀬目水車の石臼 大日女尊神社
  - ⑨ 旧久原邸の現況
  - ⑩ 神戸モスク
  - ⑪ 甲南大学 正門より10号館
  - ⑫ 石畳の岡本商店街 冬の夜

『大学的神戸ガイド』(2021、昭和堂)は、甲南大学で進めるプレミアプロジェクトの一環として出版した本です。この本は歴史文化学科の全教員が参加し、六甲山の成り立ち、中世の錯綜した地域史、海と山を結ぶ近世の街道、港町神戸における文化的交流など、それぞれの専門的立場から私達にとって身近な神戸のことをアカデミックに紹介しています。本学図書館や歴史文化学科図書室にもこの本は置いているので、ぜひ、手に取って読んでみて下さい。そして、読んだ感想や気が付いたことを、執筆した教員に伝えてほしいと思います。(教員・佐藤泰弘)

### 白鶴美術館連携プログラム「清華堂への訪問」

2021年10月23日、表具工房の清華堂を訪問し、屏風の枠付けなどの作業を見学しました。それは、白鶴美術館との連携による「教育プログラム」で行われるワークショップの準備としてでした。枠付けは屏風の縁に黒い木枠を付けていく工程です。枠は屏風の形や他の辺の枠と、ぴったり合わなければなりません。1ミリの隙間も許さないような微調整に表具師が用いたのは包丁でした。その包丁で木枠を薄く削り、他の枠と合うようにします。見学後、どの表具師も作るという竹べらを実際に作る体験をし、丁寧に指導してもらいました。他では得難い、実りある時間を過ごすことができたことに感謝するばかりです。(2回生・柳天乃)



編集：徳留亜美(代表・3回生)・畑匡洋(2回生)・佐藤葵生(1回生)・鳴海邦匡(教員)  
 発行：甲南大学文学部歴史文化学科  
 発行日：2022年1月7日 連絡先：〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 TEL078-435-2874 (学科事務)